

AIITにおけるプロジェクト型学修（PBL）のための Backlogシステムの導入

中鉢 欣秀^{1,a)} 小山 裕司¹

概要：産業技術大学院大学（以下，AIIT）ではPBLによる高度専門職人材の育成に取り組んでいる。AIITの学生はほとんどが社会人であるため，円滑なプロジェクト活動を支援するグループウェアなどの整備に取り組んできた。2012年度より新たにBacklogシステムを導入しPBLでの利用を開始した。このシステムの導入および現在までの運用において得られた知見を報告する。

1. はじめに

産業技術大学院大学（Advanced Institute of Industrial Technology）では，高度な職業人材を育成するために必要となる学修のための情報インフラストラクチャを，在学生・修了生等に対して提供している [1], [2], [3], [4]。また，実践的な業務遂行能力を育成するために，1年間のプロジェクト型学修を必修とし，すべての学生が修士課程の2年次にプロジェクト活動を行なうことがカリキュラムの柱となっている。

このプロジェクト活動を支援するためのグループウェアとしてiPBL（Infrastructure for PBL）と呼ぶシステムを導入し運用してきた [5], [6] ..

2. Backlog 活用の考察

本学では，2年次開講の情報システム学特別演習（情報アーキテクチャ専攻）及びイノベーションデザイン特別演習（創造技術専攻）の20組のプロジェクトでPBLが行われている。

PBLでは，今年度（2012年度）からBacklogをプロジェクト支援ツールとして使い始めた^{*1}。

Backlogの機能は先に示したように「課題管理」，「Wiki」，「ファイル共有」，「バージョン管理」から構成される。

3. Backlog の利用状況

今年度前期が終わった8/31現在のBacklogのストレージの使用量を表1及び図1に示す。

バージョン管理はSubversionとGitが利用できる。また，各プロジェクトごとの容量は5GBにし，大きめのファイルを扱いたいときは別途ファイルストレージを準備してもらうことにした。

Backlogの活用はプロジェクトごとに偏りがみられた。1/4程度のプロジェクトはまったく未使用である。ストレージの使用量だけをみるとファイル共有の消費が目立ち，実際ファイル共有だけに使っているプロジェクトが多い。Wikiは8プロジェクトのみが使い，バージョン管理は利用開始願いが必要であり，5プロジェクトだけがこれを使っている。

表2及び図2に4/1から8/25までの課題アクション数をまとめた。8月は8/11の前期プロジェクト成果発表会でだいたいの活動は終了している。課題アクション数は新規課題の作成，コメント，作業進捗及び完了の報告の数である。情報アーキテクチャ専攻では突出して利用しているプロジェクトとほとんど未使用だと思われるプロジェクトがある等，程度の違いはあるが，すべてのプロジェクトで課題管理を使っているが，創造技術専攻では4プロジェクトがかろうじて使っているだけであった。情報アーキテクチャ専攻では，各プロジェクトの3から6名のメンバによって構成される。情報アーキテクチャ専攻の各プロジェクトのひとりあたりの課題アクション数を整理したものが，表3及び図3である。平均すると1メンバあたり1日1件程度のアクションである。これを構成メンバの関与の程度を100%で%示したものが図4である。メンバ間での役割%に依存するが，3プロジェクトでは特定の1%名が50%以上関与し，あるプロジェクトでは%約87%が特定の1名のアクションであるように%に偏りがみられた。

¹ 産業技術大学院大学
AIIT, Shinagawa, Tokyo 140-0011, Japan

^{a)} yc@aiit.ac.jp

^{*1} 今年度，Backlogはツールとしての提供にとどめ，使用を強制したわけではない。

議事録0719 [議事録]

新規作成編集このページにファイルを添付共有ファイルをリンクPDF

開催概要

日時	2012/07/19 (木) 20:05-22:00
場所	286PML演習室E
司会・議事録	東田・吉岡
出席者	東田・中澤・中鉢・吉谷・吉岡・江戸
欠席者	

作業内容

- リリース前確認 (吉岡)
- アントラーズカップU-10大会に関わるか判断 (東田)
- 優勝権利 (吉岡)
 - iPhoneアプリ当初リリース範囲の決定
- PR準備 (東田)
- リリース作業 (吉岡・江戸)
- 2nd時間配分

決定事項

- リリース前確認 (吉岡)
 - 公開は7/20
 - 既存データ更新
 - ロードマップ変更
 - ロードマップからテーマカラーは削除
 - 課金の仕組みは3週間以内に行いたい
- アントラーズカップU-10への参加の是非

図 A.5 Wiki による議事録の作成

api.scoredoc.netで取得できるデータを記述

戻り形式: CSV (text/csv)

- 大会一覧画面 (GET /meets/enc_fb_id (2012/8/17 変更))

iOSからの送信を拒否する/パラメータ (2012/8/17 追加)

- enc_fb_id ... 暗号化されたFacebook ID

id,name,begin,updated_at,editable,sort_items

大会ID,大会名,開催日時,編集日時,編集可否,系列情報

*整理情報 = ブックマークしてるか否か(今は0);ブックマーク総数(今は0);参加数(今は0)

トーナメント一覧画面 (GET /tournaments)

id,name,score_type

トーナメントID、トーナメント名、スコアタイプ(0: 得点あり、1: 得点なし)

試合一覧画面 (GET /matches)

match_no,user1_id,user1_name,user1_score,user2_id,user2_name,user2_score,winner_id,memo

試合No、user1のID、user1の名前、user1のスコア、user2のID、user2の名前、user2のスコア、勝者のID、詳細

*match_noはトーナメント内でのみ一意。すべてのMatchレコードで一意的な訳ではない。

図 A.6 Wiki の利用例